

第1回小牧市情報教育 ICT 推進委員会 会議録

1 会議の名称

第1回小牧市情報教育 ICT 推進委員会

2 開催日時

平成30年5月14日（月）午後3時から5時まで

3 開催場所

小牧市役所 本庁舎4階 402会議室

4 議事

- (1) (仮称) 小牧市学校教育情報化推進計画について
- (2) モデル校における実践について

5 公開又は非公開の別

公開

6 出席者

(1) 委員

氏名	職名
村松 浩幸	信州大学教育学部 技術教育グループ 附属次世代型学び研究開発センター長
阿部 哲己	小牧市小中学校PTA連絡協議会 会長
林 文通	岩崎中学校校長

梶田 光俊	大城小学校校長
谷田 浩二	小牧市 IT 活用研究委員会委員 (本庄小学校教務主任)
水野 一哉	小牧市 IT 活用研究委員会委員 (篠岡中学校校務主任)
鬼頭 宏之	小牧市 IT 活用研究委員会委員 (大城小学校校務主任)
佐々木 伸吾	小牧市 IT 活用研究委員会委員 (小牧小学校 6 年主任)
岡田 紘司	小牧市 IT 活用研究委員会委員 (小牧原小学校 4 年主任)
水野 清志	情報システム課長

(2) 事務局

氏 名	職 名
中川 宣芳	教育長
伊藤 武志	教育部長
高木 大作	教育部次長 (学校教育担当)
小川 正夫	教育総務課長
笹尾 俊介	教育総務課 施設係長
牛場 一希	教育総務課 施設係 主事
野田 幹広	学校教育課 指導主事
堀田 正二	学校教育課 課長補佐
上原 みよ子	学校教育課 学校教育係 専門員

(3) その他

氏 名	職 名
滝田 理	株式会社EDUCOM
新美 秀雄	株式会社EDUCOM
堂尾 知則	株式会社フューチャーイン

7 欠席者 0名

8 傍聴者 1名

9 会議資料

次第

資料1 小牧市情報教育 ICT 推進委員会設置要綱

資料2 委員名簿

資料3 (仮称) 小牧市学校教育情報化推進計画 (素案)

参考資料1 小牧市審議会等の会議の公開に関する指針

参考資料2 小牧市教育情報化推進計画の目指す姿

当日資料1 教育の情報化推進関係資料

当日資料2 (仮称) 小牧市情報化推進計画の策定に向けて

10 会議の結果及び経過

(事務局：堀田課長補佐)

それでは、定刻となりましたので、ただいまより、第1回小牧市情報教育ICT推進委員会を開催させていただきます。

私は、本日の進行を務めます 学校教育課 課長補佐の堀田でございます。よろしくお願いたします。

会の開催にあたり、中川教育長より、ご挨拶を申し上げます。

(中川教育長)

本日は、大変お忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。また、委員に就任いただきましたことに対しましても、重ねてお礼申し上げます。

学校のほうですが、今、学校訪問という形で、私ども教育委員会が出かけて、各小中

学校の様子を見始めたところです。先ほども、味岡中学校の理科の授業を見させていただきました。授業では、有機物・無機物の酸化で、気体で目に見えないものをどのように子どもたちに意識付けするのかということで、ICT機器を活用しておりました。また、国語の授業では、ICT機器を使わず、旧来の短冊を先生が作って、黒板に掲示して授業をしていました。この部分で、例えば、デジタル教科書を使用すると、事前準備がどのくらい軽減されるのかと考えながら戻ってきたところです。まさに、これからICTを活用することによって、学びあう学びをさらに深められていくのかと感じたところです。

本日は、第1回目の委員会ということで、まず、本委員会について簡単に説明させていただきます。本委員会は、平成15年に小中学校の情報教育に係るICT施策を推進するために設置され、これまで学校におけるICTの推進や整備に関する様々な議題について、ご意見をいただけてきましたが、近年は開催しておりませんでした。

昨年度、今後の学校におけるICTの整備や活用に関する基本方針となる「情報化推進計画」を策定するにあたり、まずは計画の「目指す姿」について、コンピュータ整備検討委員会で様々なご意見をいただきましたが、計画を策定するにあたっては、この委員会を再度立ち上げることにしております。

そして、今年度、外部の知識経験者、学校現場の先生方を委員にお迎えし、委員会の名称等も改正しまして、本日の開催に至ったところです。

委員会は本日と11月の2回の開催を予定しております。開催回数は少ないですが、委員の皆様には、その中でも忌憚ないご意見を聞かせていただき、今年度中に推進計画をとりまとめていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。簡単ですが、挨拶にかえたいと思います。本日はよろしくお願いいたします。

(事務局：野田指導主事)

学校教育課の野田でございます。今、教育長からもお話がありましたが、当日資料としてお配りした「(仮称)小牧市情報化推進計画の策定に向けて」をご覧ください。

平成24年度以降開催されていませんでした本委員会ですが、今年度は2回開催し、

ここで小牧市情報化推進計画の策定を進めさせていただきます。なお、策定にあたっては、この委員会だけでなく、その下にあります既存のコンピュータ整備検討委員会及びIT活用研究委員会、この2つの委員会からもご意見をいただきながら、計画の策定を進めてまいります。

したがいまして、組織としては、これら3つの委員会が関わり合いながら、計画の策定を進めてまいりますことをご承知いただきますようお願いいたします。

(事務局：堀田課長補佐)

ここで、本来であれば委員の皆様と事務局職員等の紹介をさせていただくところではありますが、時間の都合上、誠に申し訳ありませんが、資料2「委員名簿」及び配席表の配付をもちまして、委員及び事務局の紹介とさせていただきたいと思えます。

続きまして、次第の2 委員長及び副委員長の選任でございますが、本委員会の委員長及び副委員長につきましては、小牧市情報教育ICT推進委員会設置要綱第3条第4項の規定により、委員の互選をもって定めるとあります。

これに基づきまして、委員長・副委員長について、どなたか立候補あるいはご推薦いただけないでしょうか。

(林文通委員)

委員長には、村松委員にお願いしたいと思えます。また、副委員長には梶田委員にお願いしてはどうかと思えます。

(事務局：堀田課長補佐)

ただ今、林委員より、委員長に村松委員を、副委員長に、梶田委員を推薦するというご発言がありました。

お諮りします。村松委員を委員長、梶田委員を副委員長とすることにご異議ありませんか。

～異議なし～

(事務局：堀田課長補佐)

ご異議もないようでありますので、村松委員が委員長に、梶田委員が副委員長に決定されました。

それでは、村松委員長から一言ご挨拶をいただきたいと思います。

(村松浩幸委員長)

改めまして、皆様、こんにちは。ただいま、選出していただきました信州大学の村松と申します。小牧市さんとは、昨年から文部科学省の ICT 活用教育アドバイザー派遣事業のアドバイザーとして、また、教員の夏季研修で関わらせていただきました。また、こういう形で小牧市さんと関わらせていただくことを大変うれしく思います。少しでもお役に立てればと思いますので、ぜひ、委員の皆様におかれましては、協力いただきますようお願いいたします。

小牧市さんの過去の ICT 活用についてはしっかり進められていると注目していたところですが、その上でさらに次のステップとして、現在、推進計画の策定について検討されているということですので、今後の役に立つように進めていきたいと思います。

せっかくですので、先だって全国の話をしていただき、議論の参考にさせていただきたいと思います。A3 の当日資料をご覧ください。こちらは、文部科学省の ICT 活用教育アドバイザー派遣事業で1年間の各地の取組みのまとめとして、作成した資料です。

まず、皆様ご存知のように、平成 32 年に向けて新しい学習指導要領が出ました。その特徴としては、情報活用能力が教科を超えて、基本となる資質能力であると定義されたところです。そして、こどもたちが情報活用能力を身につけるためには、環境整備が必要であるということで、地方財政措置が5年間で1,805億円という多額の予算が講じられています。しかも、現在、働き方改革についていろいろな場面で言われていますが、

こどもたちの ICT 環境の整備だけではなく、校務支援システムの整備も大きな課題として挙げられています。ちょうど今日も、市役所でプログラミング教育のポスターを拝見しましたが、小学校でのプログラミング教育も今後必修化に向けて力が入ってきております。

それと共に、3年ほど前の全国の情報活用能力調査で、文字入力については小学生・中学生は1分間で20文字いくかいかないかという結果でした。この結果ですと、実際に情報を整理するときに、そもそも活用できるレベルではないということで、国も大きな危機感を持ちまして、かなり力を入れていこうとしています。

校務支援システムについても、今までのように単純に成績処理をするというのではなく、統合型でより情報を上手く共有して活用できるようなタイプが進められてきております。

裏面をご覧ください。こちらは、地方自治体の情報化推進のために、ICT活用教育アドバイザー派遣事業を通じて、こういった形で進めていくのがいいのかということで、全国各地のアドバイザー事業のフィードバックを踏まえて整理されたものです。

学習指導要領の基本的な考え方としては、資質・能力の3つの柱が今回の大きな重点項目です。これをもとにしながら、あるべき姿として、どういうこどもたちを育てたいのかを明確化しています。大別しますと、知識・技術の習得とともに、思考力・判断力・表現力等を育成していきます。この情報活用能力が言語能力とともに、学習の基盤になるとされています。

資料の一番左側の基本プロセスと進め方のなかに、「(2) 目的を明確にする」や「(3) 推進計画を策定する」とありますが、この委員会はこちらのフェーズに入っていると思います。そして、先ほどご説明いただいた2つの委員会では、どのようにICTを活用していくか、具体的な整備計画を立てるのかというところを展開していくという流れがありますので、本日の議論の参考にしていただければと思います。

(事務局：堀田課長補佐)

ありがとうございました。

それでは、ここからの進行につきましては、委員長にお願いをしたいと思います。

よろしくお願いいたします。

(村松浩幸委員長)

それでは、次第に沿って進行させていただきます。

次第の3 会議の公開について、事務局より説明をお願いします。

(事務局：上原専門員)

それでは、会議の公開につきまして、ご説明させていただきます。

本市における会議の公開につきましては、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針第4条第1項において、「会議の公開又は非公開の決定は、審議会等の長が、会議に諮って行う。」と規定されておりますことから、ご審議いただくものでございます。

なお、同指針第3条では、「会議を公開することにより、当該会議の適正な運営に著しい支障が生じると認められる場合などを除き公開する。」と規定されておりますことから、事務局といたしましては、まずは原則公開とさせていただきます。仮に、会議の適正な運営に著しい支障が生じると認められる場合は、その都度、審議いただくことにしたいと考えております。

以上、簡単ではございますが、会議の公開の説明とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

(村松浩幸委員長)

ただいま、事務局より説明がありましたが、会議録を含めました会議の公開についてご意見・ご質問等のある方はございますか。

意見もないようでありますので、会議の公開について、事務局案のとおりご異議ありませんか。

～異議なし～

(村松浩幸委員長)

それでは、当委員会につきましては、事務局案の通りとさせていただきます。

(事務局：堀田課長補佐)

ありがとうございました。なお、本日の傍聴者は1名です。

(村松浩幸委員長)

議事に入ります前に、1点進行上のお願いをさせていただきます。

本日の審議終了時間は、午後5時を予定しています。なるべく多くの方にご発言いただきたいため、ご意見は1回につき、2点まででお願いします。また、ご意見等については挙手していただき、お名前をお呼びいたしますので、その後にご発言ください。

それではお手元の次第に基づいて会議を進めます。

次第の4 議事に入ります。議題の1（仮称）小牧市学校教育情報化推進計画について、事務局より説明をいただきます。

(事務局：野田指導主事)

それでは、次第の4（1）（仮称）小牧市学校教育情報化推進計画について、説明させていただきます。

参考資料2「小牧市情報化推進計画の目指す姿」をご覧ください。この資料は、冒頭の教育長のあいさつにもございましたが、昨年度、この計画を策定するにあたり、議論のスタートとして、まずは、目指す姿についてしっかり議論しましょうということで、先ほど委員長に認められました村松先生をアドバイザーにお迎えし、第4回、第

5回のコンピュータ整備検討委員会でご議論いただいた際の資料です。

裏面をご覧ください。第5回のコンピュータ整備検討委員会が出されたご意見を踏まえ、会議後に、村松先生からいただいたご助言内容が黄色で記載されています。

続きまして、資料3「(仮称)小牧市学校教育情報化推進計画(素案)」をご覧ください。こちらは、昨年度の目指す姿の議論を踏まえ、また、他自治体等の情報化推進計画等も参考にしつつ、事務局で議論の「たたき台」として作成した計画の素案です。

詳細な説明につきましては、資料を事前に送付させていただいておりますので、簡単に概略を説明させていただきます。

まず、計画の構成としまして、第1章の「策定について」から、第5章の「計画の進捗管理」までの5章構成としております。

計画名につきましては、「仮称」とさせていただいておりますが、1ページの「計画策定の趣旨」に記載したとおり、現在、国において「学校教育情報化推進計画」の策定義務付けが検討されていることから、この名称とさせていただきました。

2ページをご覧ください。(2)計画の位置づけであります。この計画は、市の最上位計画である「小牧市まちづくり推進計画」、昨年度定められました「小牧市教育大綱」、「小牧市教育振興基本計画」に定める基本方針や施策の基本方向を踏まえたものとして位置づけております。

下段の(3)計画期間であります。本計画期間は2019年度から2021年度までの3年としております。なお、今回策定するものは、第1次計画であり、この第1次計画の3カ年の検証結果を踏まえ、より具体的なICT機器の整備計画を盛り込んだ第2次計画を策定する、とさせていただきました。

3ページから6ページにおいては、国等の動向を記載しており、特に、昨年12月に、文部科学省から通知されました「平成30年度以降の学校におけるICT環境の整備方針」の概要について表形式にて記載させていただきました。

7ページからは、第2章として「小牧市の現状と課題」を記載しております。(1)①では、小牧市におけるこれまでの情報化の流れとして、簡単に時系列にまとめたも

のを記載しました。

9 ページ中段からの②は、現在の ICT 環境として、文部科学省の調査結果項目に基づいて、全国平均、県平均に比べて小牧市の現状を記載しており、結果としましては、小牧市はほぼすべての項目で全国平均を上回っておりますが、「教育用コンピュータ 1 台当たりの児童生徒数」については全国平均より低い結果となっています。

10 ページ中段からの③では、教員の ICT 活用指導力として、同じく文部科学省の調査結果を記載しております。

続きまして、11 ページをご覧ください。④ネットワーク環境として、本市においては、校務支援システムを早期から導入・活用してきたことを記載しております。

続きまして、12 ページの(2) 教員アンケート結果については、①として、昨年度コンピュータ整備検討委員会で実施した「児童生徒用タブレット PC の活用に関するアンケート」の結果を記載しており、14 ページの②として、今後、IT 活用研究委員会にて実施されるアンケート結果を記載する予定です。

次の(3) 今後取り組むべき課題については、(1)の「現状の ICT 環境」から(2)の「教員アンケート結果」で、全国との比較やアンケート結果から浮き彫りになった本市の課題を記載しております。素案としては、①から⑦の7項目記載しておりますが、今後行われるアンケート結果等を踏まえ、課題を追加する、あるいは、文章を修正することになります。

ここに記載する「今後取り組むべき課題」から、第3章の基本方針、第4章の具体的な取り組みにつながるようになります。

(村松浩幸委員長)

今、第1章と第2章について、ご説明いただきました。まず、ここまでのところで、委員の皆様からご意見・ご質問をいただければと思います。いかがでしょうか？

(林文通委員)

第1章の(1)計画策定の趣旨について、ICT教育を進めていくうえで、私は2つの側面があると考えております。1つは、小学校にプログラミング教育が導入されたように、個々の情報活用能力を高めていくという側面と、もう1つは、ICT機器をいかに導入して、効率よく活用していくかという側面があると思います。

この文章を読むと、前半には情報活用能力について記載されており、中盤からはICT機器の利用について、あくまで学びの道具ですと警鐘めいたことが書かれており、最後の段落につながっています。この文章を読むと、ICT機器をどう整備し、活用していくのが主体の文章ですので、ぜひプログラミングを中心とした情報活用能力を高めるという意味と、環境面としての機器の活用方法を模索していくという2本立てが伝わるような表現になれば良いと思います。

(村松浩幸委員長)

今のご意見は、情報活用能力そのものについて、計画策定の趣旨にもう少し入れ込んだほうが良いということでした。もう1つの機器の活用の話ですが、校務系のお話、先生側のお話も含めたご提案でしょうか？

(林文通委員)

機器の活用についてはこれでいいと思いますが、個々の情報活用能力についても並列して書いていただきたいということです。

(村松浩幸委員長)

思考力・判断力・表現力を伸ばすと同時に各教科の基盤になるというのが情報活用能力ですので、その部分にもぜひ焦点をあてたほうがよいというご提案でした。

今のご提案に関連して、ご意見はありますか？

(梶田光俊副委員長)

今の林委員のご意見について、私も同じことを感じています。計画策定の趣旨の文章で、「しかし、ICTは万能ではありません」という文章以降、表現したいものがそれまでのものと一変したと感じました。ここの部分が、なぜ小牧市は情報化推進計画を作るのか、気持ちの部分を表すところになると思いますので、こどもたちの生きていく力、能力を高めるために上手にICT機器を活用していくという点を強く訴えられればいいと思いました。

(村松浩幸委員長)

計画策定の趣旨については、理念を訴えるところですので、ご指摘いただいたように大切にしたいほうがいいと思います。第3章の目指す姿と基本方針の内容がここに盛り込まれてくると、今、ご指摘いただいた意見を実現できるかと思います。

他に、ご意見はありませんか？

(水野一哉委員)

多くの先生に伝わってほしいですが、私も上手く説明できないですし、皆さんにもたぶん伝わっていないと思うこととして、「情報活用能力がそもそも何か」ということです。こどもたちが何をできるようになればいいのかという点が伝わりきってなくて、使わせればいいんでしょという形になってしまっていると思います。

計画策定の趣旨の文章中、6行目にある言語能力や問題発見・解決能力などは分かりやすいです。それに比べると、情報活用能力は、情報のトラブルに巻き込まれない力なのか、機械を上手に使う力なのか、何なのかということになってしまいます。ここか後ろの部分で、もう少しかみ砕いた形で記載して、そういった力を伸ばしてあげればいいんだと、多くの先生や保護者の方に伝わると、後段の文章もしっくりくると思います。

(村松浩幸委員長)

今のお話ですと、そもそもこの計画を誰に向けて発信するのか、教育の関係者、行政

関係者だけでなく、市民の方にも読んでいただき、理念が伝わるように、一番中心となる能力について説明を丁寧にしたほうが良いというご提案かと思います。確かに、必要などころかと思います。

第3章の基本方針等を議論していく中で、こういう点は大事にしたほうが良いとピックアップされるかもしれませんが、それらを踏まえて、最後に、この趣旨の部分に戻りまして、格調高く、わかりやすい文章に仕上げられれば良いと思います。

その他、ご意見はありませんか？

(村松浩幸委員長)

事務局に1点質問です。資料3の14ページにICT機器の活用状況に関するアンケートについて記載されています。その前の12・13ページでは、タブレットPCに絞ったアンケートについて記載されていますので、これは、プロジェクタや実物投影機などその他機器についてのアンケートということによろしいですか？

(事務局：野田指導主事)

14ページに記載されていますICT機器の活用状況に関するアンケートについては、IT活用研究委員会で作成しており、その内容は、「どんなソフトを使ったことがありますか?」、「どんな機器を使っていますか?」、「使っているときに困っていることはないですか?」などの数項目で構成され、現在の活用状況、活用しにくい状況、活用するためにはどうすればいいのかという内容になっております。

(梶田光俊副委員長)

IT活用研究委員会の委員長をさせていただいていますので、説明させていただきます。

12・13ページに記載されているタブレットPCに関するアンケートは、各学校に台数が少ない状態で導入されている環境のもと、どういう活用をしているかということ进行分析するために、コンピュータ整備検討委員会で実施したものです。

ICT 機器はタブレットだけでなく、書画カメラやプロジェクタ、各校1台の電子黒板等があります。先生方がそれらの機器をどのように活用しているのか、実際に使ったことがあるのかを示すデータがありませんので、データをとってみようということです。

また、ソフトウェアの使い方がよくわからないから機器を使わないという話もよく聞きます。本当に使っていないのか、今まで想像でしか話をしていませんでしたので、目に見える形にできればと考えまして、学校に整備されている機器を一覧で挙げて、使ったことがあるもの、使ったことがあるソフトウェアという形で、現在アンケートをとっているところです。

(村松浩幸委員長)

デジタル教科書についてもアンケートに入っていますか？

(梶田光俊副委員長)

はい、導入しているもの全てが入っています。

(村松浩幸委員長)

ICTは機器だけではなくて、教材も含めてという話で了解しました。

その他、ご意見はありませんか？

(梶田光俊副委員長)

9ページの現在のICT環境のところ、私も記憶が定かではありませんが、小学校では4教科、中学校では5教科においてデジタル教科書が導入されていると記載されていますが、書写や地図帳、家庭科等にもデジタル教科書が導入されていたかと思しますので、このあたりの記述について確認が必要です。

もう1点、10ページの小学校と中学校の普通教室の無線LANの整備率について、小牧市では全ての普通教室で無線LANを使うことができるよう整備されていると思いますが、

なぜ 99.7%となっているのか、確認したいです。

(村松浩幸委員長)

まず、1点目のご意見のデジタル教科書について、例えば、今はハードウェアと整備の状況、インターネット環境のインフラの話が記載されていますので、教材についても表形式で明示していただくと齟齬が無くなると思います。ソフトウェアや教材等の整備状況についても盛り込んでいただければと思いますが、よろしいですか？

(事務局：野田指導主事)

わかりました。確認しまして、加えさせていただきます。

(村松浩幸委員長)

次に、2点目のご意見の無線 LAN の整備率について、小牧市は全国的に見ても高いかと思えます。ご指摘いただいた小学校の 99.7%についてはいかがですか？

(事務局：野田指導主事)

確認しまして、委員の皆さんに連絡させていただきます。

(村松浩幸委員長)

その他、ご意見はありませんか？

(阿部哲己委員)

タブレットが何台分ずつ用意されるのか、また、壊れたときの対処はどのようなのでしょうか？

(村松浩幸委員長)

今のご意見は、14・15 ページの今後取り組むべき課題のところになると思います。具体的な台数やメンテナンスの話については、コンピュータ整備検討委員会とリンクしながら決めていくことになると思います。ただ、方向としては、子どもたちにどれくらい、例えば一人1台とか、明確にしたほうが良いということですね。

サポートの体制についても、④ICT の活用推進にトラブル等に対する技術支援の話が入っていますので、保証の対応についてもこのあたりに盛り込んでいただければと思います。

その他、ご意見はありませんか？

(村松浩幸委員長)

梶田副委員長にお聞きしたいのですが、ICT 活用研究委員会で実施されるアンケート結果のまとめはいつ頃になりますか？

(梶田光俊副委員長)

今、各学校でアンケートを実施中であり、今週中には私のところに集約され、そこからまとめに入りますので、2、3週間でまとめたいと考えています。

(村松浩幸委員長)

そうしますと、13 ページのタブレット PC のアンケートですと、活用できない理由、問題、必要台数がまとめられています。同じようなまとめをご提示いただけるという予定ですか？

(梶田光俊副委員長)

その結果を受けて、どう分析するかについては、IT 活用研究委員会やコンピュータ整備検討委員会の委員に見ていただいて、どんなことが読み取れるか話し合っていきたいと考えています。

(村松浩幸委員長)

その結果によっては、今記載されている課題に追加したり、修正したりすることになると思いますので、IT 活用研究委員会で課題も含めて検討いただき、この委員会にご提示いただいて、第2回委員会までに盛り込む形で進めていきたいと思います。

その他、ご意見はありませんか？

(林文通委員)

12 ページの児童生徒用タブレット PC の活用に関するアンケートについて、「活用している教員は少ない」又は「ほとんど活用していない」と回答した学校が多くあると書かれています。これだけ見ると、学校現場はせっかく導入していただいたタブレットについて、使い方が消極的で、使おうとしていないのではと感じてしまいます。実際は、現場の教員は使えるものはぜひ利用したいと思っている人がたくさんいますし、ただ、使いたいけど台数の問題や性能面でもう少し手軽に早く処理できるなど、環境面が変わっていけば、もっと利用率は上がると思っています。

例えば、スマートフォンはどこでも手軽に使える道具ですので、積極的に誰でも使うようになりましたが、学校に導入されているタブレットがそのような環境になっていないから、こういう現状なのではと思っています。決して、マイナスではないと思っていますが、この文章だけ読むと、学校現場は ICT の導入に対して非常に消極的なのではないかと思われてしまうのが残念に感じています。

(村松浩幸委員長)

大事なご指摘かと思います。前提となります小学校は各校 6 台、中学校は各校 10 台とかなり試験的に導入されている中で、こういう課題があがってきたと、その課題が解決されれば、もっと活用できるのではないかと、そういう流れですね。前向きな形で少し捉え直していただければと思います。

その他、ご意見はありませんか？

(水野一哉委員)

確かに、今導入されているタブレット PC は、小学校ではタブレットという言葉がない頃に、スレート PC として導入されたものです。起動して、安定して使えるようになるまでに授業時間の半分が過ぎているということを知ります。

その後で、導入された中学校では小学校に比べてより活用されています。中学校のタブレット PC も、ノート PC レベルで早く起動するだけで、これだけ使っているわけです。起動が速い、バッテリーが長持ちするようになれば、今皆さんがお持ちのスマートフォンのように、利用が広がる可能性は高いと思います。現状のスレート PC で活用していないと話題にするのは、現場がかわいそうだと思います。

(村松浩幸委員長)

小学校と中学校とでは、導入されている機器は同じ機種ですか？

(梶田光俊副委員長)

違う機種で、導入時期に1年の差があります。

(村松浩幸委員長)

小学校より中学校への導入台数が多いですし、9台だとグループ1台くらいですね。また、導入時期が違えばその間に技術革新がありますので、そういった考察も入れて、小学校で6台を上手く活用できなかった理由を掘り下げて、次につなげていただければと思います。

今のようなタブレット PC について、アンケートの結果の考察の再構成が必要などころが出てくると思います。また、IT活用研究委員会のアンケートの考察も出てきますし、それらを踏まえて、今後取り組むべき課題については再度見直ししていただくとより良

いものになると思います。

他に、ご意見はありませんか？

(佐々木伸吾委員)

15 ページの④ICT の活用推進や⑤教員の ICT 活用指導力で、「学校間で差が生じている」、「各校における取組意識に差が生じている」との指摘があり、それに対する取組みを各学校で進めることが必要とされています。市として、あるいは小中の学校間など、大きな研修や情報交換の取組みが見えてこないのも、もう少し内容が濃くなれば良いと思います。

(村松浩幸委員長)

市としてどのように全体で取り組んでいくのか、課題を明確にすべきというお話でしたが、事務局として何か考えられていることはありますか？

(事務局：野田指導主事)

今、新しい機器やソフトウェアが入りますと、それに対する研修を行っていますが、そういったことをもっとできるように、現在実施中のアンケート結果等を踏まえて考えていきたいと思っています。物が入ったけど使えないということがないように取り組んでいきたいと考えています。

(村松浩幸委員長)

そうしますと、市全体としてどのように進めていくのかももう少し具体化され、明示的になるように検討をお願いします。委員の皆様も、この他、お気づきのことがありましたら、事務局へご連絡ください。

それでは、第3章以降について、事務局より説明をお願いします。

(事務局：野田指導主事)

17 ページをご覧ください。第3章の基本方針になります。本日は、この第3章について、主にご意見をいただきたいと考えております。こちらには、昨年度議論いただきました参考資料2の目指す姿を落とし込んでおります。

まず、(1) 本計画が目指す姿は、教育大綱が掲げる「小牧市が目指す人間像」を踏まえ、道具としてICTを活用することで、「時代を切り拓くこども」を育成する一助となることとさせていただきます。

そして、「時代を切り拓くこども」とは何かということで、ICTで伸ばす「個の力」と「協働の力」として、3項目の力を掲げております。まず、「個の力」として、「教科の力」に主眼を置いたAと「教科にとどまらない情報活用能力」に主眼を置いたBを記載しております。また、「協働の力」に主眼を置いたCを記載しました。

次に、(2) 基本方針については、①こどもの視点、②教員の視点、③保護者・地域の視点に分けて記載し、共通するICT環境の整備に関する部分を④としました。

各項目の右側には、網掛けで「教科系」「情報活用能力系」等の記載がありますが、これは参考資料2の裏面の村松先生のご助言を踏まえまして、各項目の文章を記載させていただいたものです。

この計画は第1次計画として3カ年の計画ですが、この第3章については、第1次計画にとどまらず、2次計画においても大きく変わるものではないと考えております。

続きまして、20 ページをご覧ください。ここからは第4章として、具体的な取組みを記載する予定です。記載イメージとしては、基本方針ごとに具体的な取組みの内容、年次計画、評価指標を記載してはどうかと考えております。

先ほど、第3章の基本方針は第2次計画でも大きく変わらないと申しましたが、第4章の具体的な取組みは、基本方針の内容のうち、3か年で具体的に取り組む内容を記載するものであり、基本方針の内容をこの3カ年ですべて達成するという意味ではありません。

22 ページには、第 5 章として、この計画の進捗管理について記載しております。

本日は、主に第 3 章の目指す姿と基本方針についてご意見をいただき、いただきましたご意見をもとに修正等を行いまして、今後、開催されますコンピュータ整備検討委員会、IT 活用研究委員会で第 4 章の具体的な取組みについてご意見を伺っていきたいと考えております。

以上で説明を終わります。

(村松浩幸委員長)

第 3 章の (1) 目指す姿から進めたいと思います。それでは、ご意見・ご質問等ありましたら、お願いします。

(林文通委員)

最初に言いました計画策定の趣旨のところと連動するのですが、「時代を切り拓く子ども」の個の力の A が、ICT の機器の利用にあたり、B が情報活用能力にあたると捉えています。ここでは、2 つのことが掲げられていますが、計画策定の趣旨では片側に寄っている文章ですので、2 本立てにさせていただきたいと思います。

また、4 行目に、「道具 (ツール) として ICT を活用することで」とあり、ここも機器の利用に偏った表現に見えますので、ここに情報活用能力に関わる一文が並列して記載されるといいと思います。

先ほど、水野委員から、情報活用能力とは何かという問いもありましたし、私も考えたのですが、例えば、プログラミングに限定するのではあれば、ただ物を動かす、結果として動けばいいということではなく、いかに効率よく動かすか、論理的な思考が作業を通して深まっていくことが目指すべき姿なのかと思います。であれば、この部分に、一つの例ですが、こどもたちの論理的思考を深めるというような文章が入ればいいと思います。

(村松浩幸委員長)

今のご意見は、前段部分が計画策定の趣旨をかなりコンパクトにした形ですので、偏っているのではないかと。後半は2本立てになっており、これは良いと。ただし、論理的な思考についても追加するといいいということでした。

趣旨のところで色々議論もありましたので、「時代を切り拓くこども」について議論を焦点化させていただいて、これを丁寧に説明するのが前文になろうかと思しますので、反映して修正していきたいと思います。

林委員、論理的な思考を入れ込むとしたら、どの部分に入れ込むと良いとお考えですか？

(林文通委員)

論理的な思考が情報活用能力と同じか、よくわかりませんが、例えばプログラミングも例とするなら、Bに入るのかと思います。ただ、私は、この四角の中というよりは、前文に入れば良いと思います。

(水野一哉委員)

論理的な思考は、この四角の中には入っていませんが、プログラミングに関していえば、論理的な思考のもとで作ってみて、動かしてみたら、気づかなかった失敗があったというふうに結果を受けて直すものです。動かしてみなければ分からない、動かすと、色んなエラーが出る、これを繰り返す実践力が置いていかれるのではないかと考えています。実際にやってみようということも含めて書かれていると良いと思います。

論理的思考については、自分はAに入るかと思いましたが、本来はBに入るのかと思います。

(村松浩幸委員長)

論理的思考は、情報だけにとどまらず、各教科の基盤となるような広い意味、情報活

用能力に通じるような資質能力ではないかというご意見ですね。

他に、ご意見はありませんか？

(梶田光俊副委員長)

協働の力とありますが、皆さんは「協働」について、どんなイメージを持っているでしょうか。「協働」、「協同」、「共同」など色々あります。協働の力とは何かを考え、新学習指導要領を改めて読んでみましたが、どこにも協働の力について書かれていません。こどもたちの育てたい力として、対話的で主体的な深い学びと書かれていますが、その手法として、こどもたちが協働して学ぶとありました。協働について、村松委員長にも教えていただければと思っています。

(村松浩幸委員長)

一般的に、「協働」と「協同」は英語にしたほうがわかりやすく、コーポレーションとコラボレーションの違いとして説明されることが多いです。「協同」はコーポレーションで、意味としては協力の意味が強く、役割分担をするという意味もあります。「協働」はコラボレーションで、同じでありながら一緒にやっていくということで、「協働」と「協同」にはレベルの違いがあります。今のお話ですと、コラボレーションの「協働」のほうがより良いと思います。

(梶田光俊副委員長)

小牧市がこれまで進めてきた学び合う学びについても、こどもたちがお互いに関わり合うなかでさらに自分の能力を高めていこうということですので、今の委員長の説明を聞きますと、「協働」が良いと思います。

(村松浩幸委員長)

他の委員の方は、いかがですか？

(水野一哉委員)

Cの「ICT を活用して対話的、協働的に深く学び、問題解決する力」は、ICT をどのように使って、何をやるのかがあまり見えません。個の力は何となくイメージができるのですが、協働の力についてイメージできないので、前文かどこかで、もう少しわかりやすくなると思います。

(村松浩幸委員長)

一般的には、A・B・Cの学習の形態で分けられている文部科学省の資料があったと思います。小牧市さんと合うかどうかはわかりませんが、一般的な対話的・協働的な学習形態として、いくつか例示がされていたと思いますので、それを参考資料の形で引用することも考えられます。

先ほどの論理的思考のお話について、個の力のAについて、例えば、「思考・判断・表現を深める力」とすると、論理的思考も含まれると思います。

Bについては、一般的な情報活用能力、情報モラル系の話も含めて、ある程度ここでまとめておいたほうがいいですね。プログラミングについて、また新たに1つ項目を立てると、話が複雑になってしまいます。プログラミングについては、A-1に含められていますので、表現を少し工夫すればいいと思います。

(林文通委員)

先ほど、私は論理的思考についてBに入れるべきと発言しましたが、皆さんのお話を聞きますと、Aに含ませたほうが自然であると感じました。

(村松浩幸委員長)

そうすると、Aの表現を工夫して、論理的思考について入れ込む修正を行うということにさせていただきます。

他に、ご意見はありませんか？

(阿部哲己委員)

Cの「協働的に深く学び、問題解決する力」について、「問題」という表現を少し変えると、小牧市が目指す人間像に係ると思います。

(村松浩幸委員長)

学習指導要領としては、問題を発見とか、課題解決能力という言い方をしていますが。

(阿部哲己委員)

小牧市が目指す人間像では、たくましく生きるということですので、問題解決して生きていくというと、少し違うように思います。問題を解決しないと、生きていけないのかと。

(村松浩幸委員長)

本日のA3の当日資料を見ますと、育成すべき資質・能力には三つの柱があります。「学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力」が最終的なところになりますので、解決する力というだけではなく、広い意味に踏み込むと、このあたりを生かすことになります。

(阿部哲己委員)

「解決する力」はいかがですか？

(村松浩幸委員長)

問題以外にも課題解決など、色んな言い方をしますが、「解決する力」についてはいかがでしょうか？

(梶田光俊副委員長)

そもそも、この文章には2つのこと、対話的で協働的に深く学ぶということと、課題解決能力を高めるということが書かれており、違和感があります。かといって、2つに分ければいいのかというと、どこかを明確にすると、どこかと整合性がとれなくなってしまう。

もう1点、「主体的に学ぶ」という言葉がここにはありません。学習指導要領が主体的に学ぶことを求めているので、あえて書かなくてもいいという考え方もあると思いますが、他の委員のご意見を聞かせていただきたいです。

(村松浩幸委員長)

たとえば、一つの案として、Cを「対話的、協働的に深く学び、学びを生かそうとする力」としますと、たくましく生きるといった広がったイメージになると思います。そうしますと、問題解決する力もその中に吸い込めます。かなり漠然としてしまいますが。

(鬼頭宏之委員)

「学びを生かそうとする力」は、協働でやりますが、学びに生かそうとするのは最終的には個人ということでしょうか。

(村松浩幸委員長)

最後は、個に返ってくるのですが、その個をやっていくためには協働的の取組みが必要ということでしょうね。一般的には、個と協働は明確に分けられるものではないと思います。協働でやることで個々の力も伸び、個の力が伸びていくことで協働的に大きな課題を解決できますし、相互的な関係性があると思います。

小牧市さんは学び合う学びを大事にされていることを考えると、協働の力について大きく掲げても良いと思います。

ご意見いただきました「主体的に学ぶ」については、対話的、協働的にやっている時点で主体性がなければできないとは思いますが。「主体的に」については、前文に上手く入れ込んでいただいてよろしいでしょうか。

その他、ご意見はありませんか？

(谷田浩二委員)

「道具（ツール）として ICT を活用する」という表現について、IT ではなく ICT で、それぞれの ICT 機器を使う力に加えて、ICT 機器を使って相手とのコミュニケーションを高めていくことも必要であり、それが時代を切り拓くこどもの C にあたる部分だと思います。

今の前文では、道具として ICT を活用するとかなり限定的になってしまい、協働的や対話的、協力して相手とコミュニケーションをとる、その部分が薄いと思います。

(村松浩幸委員長)

個の力の A と B、協働の力の C の内容について、前文で丁寧に説明し、この 3 つの力をつけて、時代を切り拓くこどもを育てるために、ICT を活用するという流れにすると、今のご意見が反映されると思います。また、読んでいる側もそもそもどういうこどもを育てて、それを目指すために ICT を活用するというロジックがわかると思いますので、そういった流れで修正していただければと思います。

その修正にあわせて、第 1 章の計画策定の趣旨にも、こどもたちを伸ばす力の話を加えて、それを育てるために ICT を活用していくという形にすると、わかりやすいと思います。

他に、ご意見はありませんか？

(水野一哉委員)

時代を切り拓くこどもの A・B・C にそれぞれ書かれている「ICT を活用して」を削

り、「～する力」ではなく、「～するこども」ではないかと思います。ICT を活用するのは前提なので、書かないほうがこんなこどもにしたいということがわかりやすいと思います。

「時代を切り拓くこども」と書いてあるのに、説明が「～する力」になっていることが気になります。「こんなことができるこども」、「こんなこどもにしたい」という表現ではないでしょうか。

(村松浩幸委員長)

この文章は資質能力でまとめていますが、目指すこどもの姿で表現すべきではないかということでした。関連して、何かご意見はありますか？

(阿部哲己委員)

「ICT を活用する」を文章の最後にもってきて、「より深く学ぶために、ICT を活用する」という表現ではいかがですか？

(村松浩幸委員長)

そのような表現にするか、先ほどのご意見のように ICT 活用は前提なので、あえて書かないという方法もあると思います。こどもの姿で表現するか、資質能力で表現するか、それによって表記が大きく変わってきます。

(谷田浩二委員)

小牧市が目指す人間像が記載されていますので、こどもの姿で表記すると重複すると思います。また、「ICT を活用して」を削除するのは賛成です。

(梶田光俊副委員長)

私も「ICT を活用して」という表現が気になっていました。上段に「ICT で伸ばす」

と書いてありますので、削除してもよいと思います。

こどもの姿で表現した場合に、サブタイトルの「個の力」と「協働の力」と整合性がとれなくなるため、こどもの姿にするのであればサブタイトルも工夫する必要があります。また、資質能力の「～する力」とした場合、他の方が読まれたときにきちんと伝わるか心配をするところです。

(村松浩幸委員長)

まず、「ICTを活用して」という表現については、多くの委員に賛同いただきましたので、削除することとします。

資質能力の「～する力」につきましては、前段の目指す姿のところで、資質能力とともにこどもの姿について具体的に示していただき、「個の力」と「協働の力」につきましては、学習指導要領が資質能力ベースで書かれていますので、資質能力の表記で整えていくと良いと思います。ただし、もう少し理解が深まるように、A・B・Cの表現を工夫すると良いですね。A・B・Cのより良い表現については、委員の方への宿題としますので、ぜひ事務局へご提案をください。

(阿部哲己委員)

「成長する力」という表現でも良いと思います。

(村松浩幸委員長)

おそらく色々なご意見が出されると思いますので、今いただいたご意見も踏まえ、継続して検討いただくということをお願いします。

基本方針については、いかがでしょうか。残された時間で十分に議論することは難しいですし、今までの議論でA・B・Cにも修正が入りますので、その修正も踏まえて、基本方針についても再度見直すこととなります。

(岡田紘司委員)

一つ気になったこととして、17 ページの A-1 に、小学校で新たに導入される外国語科やプログラミング教育をはじめとする各教科と書かれていますが、プログラミング教育という教科が新たに起こされるわけではないので、この書き方でよいのかと思いました。

(村松浩幸委員長)

ご指摘のとおりかと思います。誤解がないように文章の順序を変えるなどして、事務局で対応してください。

他に、ご意見はありませんか？

(鬼頭宏之委員)

A-2 の内容について、特別支援教育や外国籍のこどもについて、新しく ICT 教育の環境を整備していくということでしょうか？

(村松浩幸委員長)

今のご意見について、事務局からお願いします。

(事務局：野田指導主事)

現状で困っていること、こうしていかなければいけないことが出てこれば、それは対応していくべきだと考えています。現状でも、ある小学校では、iPad を使って学習に生かしていたり、別の学校では通訳がいつもいるわけではありませぬので、コンピュータを使って通訳したりしていると聞いています。そういったことを踏まえ、これから整備する必要があることであれば、導入していくべきだと考えています。これについては、アンケート結果も踏まえて、検討していくことかと思ひます。

(村松浩幸委員長)

そうしますと、文章中の「ICT 環境を整備し」を「ICT を活用し」というくらいの表現でもいいと思います。

私からも1点。最近の動向としましては、普通教室のなかでも特別な配慮を要することもたちに対する支援についても注目されています。特別支援とともに、「特別な配慮」や「特別な支援を要する」などの内容を盛り込むとより幅広くなると思います。

他に、ご意見はありませんか？

(岡田紘司委員)

18 ページに、ICT 支援員という言葉が出てきますが、これはどういうポジションの方なのでしょう。今後、入ってくるということだと思いますが、技術系の方なのか、教育内容にも関わってサポートしていただくような方なのか。

(村松浩幸委員長)

今のご意見について、事務局からお願いします。

(事務局：野田指導主事)

今後、検討していくことですが、今、岡田委員が言われたように、コンピュータにも理解が深い方で、しかも学校教育にも理解がある方でないと、支援していただくのは難しいと思いますので、そういう方を ICT 支援員として活用できればと考えています。

(村松浩幸委員長)

機器のみならず、教育内容や教材についても助言いただける方ということだと思います。そのあたりについても計画に盛り込んでいただけると、教育委員会もがんばっているということが伝わるので、良いと思います。

他に、ご意見はありませんか？

(佐々木伸吾委員)

18 ページの C-2 に、ICT による対話力という表現がいいのかと思っています。ICT による対話力なのか、ICT を活用した対話力ではないでしょうか。

(村松浩幸委員長)

そうですね。今、ご指摘いただいた点について、表現を検討いただければと思います。

その他、お気づきのこともあろうかと思しますので、何かあれば事務局にお寄せいただきまして、第2回までに議論を深めたいと思います。

それでは、続きまして、議題の2 モデル校における実践について、事務局より説明をいただきます。

(事務局：上原専門員)

ただいま、ご議論いただきました学校教育情報化推進計画のなかでも触れていますが、本市の現在の ICT 環境は全国平均と比べましても、決して遅れているわけではなく、むしろ充実しているといっても過言ではないと考えております。

今年度、予定では、小学校については9月以降、各教室に電子黒板機能付きのプロジェクタ及びスクリーンが設置され、タブレット PC が各校に 10 台整備されます。また、中学校については、来年度予算にて、先ほど申しました小学校と同様の整備を要求していく予定です。

推進計画においては、今後3カ年の具体的な取組みを記載してまいります。事務局としましては、第1次計画の3カ年では、現在整備されている ICT 機器に加え、まずはモデル校に、たとえばより多くのタブレット PC や ICT 支援員の配置など、先端的な ICT 環境を整備し、授業実践と検証を重ねたうえで、第2次計画において具体的な機器の整備計画を盛り込んでどうかと考えております。

本市においては、ICT 機器を導入する際は、全校一斉に整備してきた傾向があります

が、限られた予算を効果的・効率的に活用する観点からも、多額の予算を要するような機器を導入するような場合は、モデル校形式により検証段階を設けることも良いのではないかと考えております。

また、今年度は、学校現場の先生方に、先進市における ICT を活用した授業を目で見ていただく先進自治体視察の予算が措置されています。なお、同時に、事務局も先進市の視察を行う予定ですので、視察のなかで委員の皆様にも共有すべき情報がありましたら、随時報告させていただく予定です。

モデル校形式とする場合、具体的にどこの学校で、こういった環境整備や機器の活用を行うのかについては、今後、先進市視察で得た情報も踏まえ、コンピュータ整備検討委員会及び IT 活用研究委員会においてもご意見をいただきたいと考えており、本日結論を出さなければいけないものではありませんが、まずは、そうしたモデル校形式について、ご意見をいただきたいと考えております。

以上で説明を終わります。

(村松浩幸委員長)

既存機器の活用推進も含めて、モデル校形式で進めることにより、データをとって、予算における説明にも活用したい、より効果的に PDCA を回して次に生かしたいという趣旨かと思えます。

具体的な学校数等について議論するというよりは、まずは、こういったモデル校形式で進めていくかどうかについて、忌憚なくご意見をいただければと思います。

(林文通委員)

小牧市では、今まで、一斉に全校に設置する形式で ICT 機器を入れてきました。もちろん事前にたくさん時間をかけて調査をしたり、案を練ったりして、その時点で考えられるベストな状況で導入しているのですが、実際に入れてみると、最初のイメージどおりに上手く運用できないということも過去にはありました。例えば、モデル校形式を採

用して、その結果で次の改善策をうっていけるのであれば、モデル校形式も良いと思います。

(谷田浩二委員)

林委員も言われたように、入れたはいいが使えないというのは困りますので、モデル校形式でさらに実践重ねて、より良いものを確認していく作業は大事だと思います。

一方で、モデル校としてやってしまうとつい力が入ってしまい、他の学校には導入できないような支援体制が入り、その結果がすばらしい実践ができたけど、それは他の学校ではやれませんかとなると。極端な話、コンピュータに詳しい方が毎日常駐していて、10人くらいクラスに入って授業ができるモデル校とすると、次の学校ではできないので、そうならないように配慮いただきたいと思います。

(村松浩幸委員長)

国でやっていたフューチャースクールは、まさにこういった実験的な取組みでして、課題の洗い出しが貴重なところであり、それにより次のステップで全国にスムーズに入れていくということがありました。今のご意見からも、モデル校方式でやることの意義や意味は、次に全体につなげるということ、運用法について十分に練っていただくことが重要です。

スペシャルなことをするのではなく、全体に入れるためにいろいろな課題を洗い出して次につなげていくということだと思います。この点についても、IT活用研究委員会やコンピュータ整備検討委員会でも議論いただいて、全体に入れる機器ならこういうものがよいとか、活用するならこういうものがいいとか、検討を進めていただきたいと思います。

(水野一哉委員)

例えば、どこかのモデル校に最初に機器が入って、実際使ってみた場合、不便なこと

が洗い出されたので、残りの学校に入れるときには、この機種ではなく違う機種にしましょうとなると、最初のモデル校が損をすることになりますので、そういったことがないようにしないといけないと思います。

(村松浩幸委員長)

先ほどの谷田委員のご意見ではプラス面、水野委員からはマイナス面がご指摘いただきました。両方の面に配慮する必要がありますが、基本的にはモデル校形式については多くの委員からご賛同いただきました。運用については、両方の面からバランスよく進むように十分検討していただくことが重要です。

(梶田光俊副委員長)

今、色んな機種やテクノロジーがあります。せっかく検証するのであれば、モデル校でやらないと検証できないような新しいテクノロジーにトライして、比較検証できると良いと思います。コンピュータ＝Windows という皆さんの中にイメージがありますが、今はそうではない時代です。そのあたりについても検証できると、これからの時代に対応できると思います。

(村松浩幸委員長)

今のご意見やプラス面とマイナス面の懸念事項について、具体的な中身の検討段階で、次につながるように検討いただければと思います。本委員会としては、そういったことを十分検討し、情報共有したうえで、モデル校形式を進めていただければという結論とさせていただきます。

それでは、次第の5 その他について、事務局から何かありますか？

(事務局：上原専門員)

計画案につきましては、本日いただきましたご意見等を踏まえ、修正案を作成させて

いただきます。また、第4章の具体的な取組みについては、今後、コンピュータ整備検討委員会、IT活用研究委員会でご意見を伺いながら、次回委員会までにとりまとめていきたいと考えております。

第2回委員会につきましては、11月頃を予定しておりますが、具体的な日程については、後日、委員の皆様にご日程調整票を送付させていただき、決定させていただきますので、よろしくお願いいたします。

(村松浩幸委員長)

ありがとうございました。それでは、他にないようでありますので、進行を事務局にお返しいたします。

(事務局：堀田課長補佐)

本日、委員の皆様におかれましては、長時間にわたるご審議、また、円滑な進行に対してご協力をいただき、ありがとうございました。

それでは、これをもちまして、第1回小牧市情報教育ICT推進委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。